平成２５年度　　宇都宮市立上河内中央小学校　学校評価書

１　教育目標（目ざす児童像含む）

○　よく考え，学ぶ子ども（知）　　○　自分を見つめ，つくせる子ども（徳）　　○　明るく，たくましい子ども（体） ～　かしこく・やさしく・たくましく　～

２　学校経営の理念（目ざす学校像含む）

激しい変化が予想される２１世紀社会の担い手として，自分の考えを堂々と表現でき，社会に有用な子供の育成を図る。そのために学習面においては，基礎・基本の徹底を図るとともに様々な場面で『練り合う』場面を設定する。生活面では，あいさつと返事の徹底を図るとともに『終始一貫』続けられる実践や『気付直行』の精神を大切にした指導を心掛けながら，他人に対する思いやりの心も育成する。また，様々な場面で学校，保護者，地域住民が関わりをもち，「地域に開かれた信頼される学校」をめざす。

３　学校経営の方針（中期的視点）

・全教科領域において『自己表現が堂々とできる子』を目ざした指導を行いながら，調和のとれた教育を行う。 ・終始一貫続けることの大切さや他人のために実践することのよさを体感できる指導を心掛ける。 ○小中一貫教育を生かした教育計画の工夫・実践と上河内地域学校園構想と連携した事業運用に努める。 ○生活と学習の基礎・基本の定着を図る。 ・仲間との共同生活を通じて，人間性や社会性など豊かな心と健やかな身体を育成する。 ・楽しく居がいのある学校づくりを推進し，地域に開かれた学校づくりに努める。

４　今年度の重点目標（短期的視点）

～主体的に学び，自分の考えを進んで表現できる子どもの育成～ （学校運営）○　笑顔と活気がある楽しい学校で地域に開かれ，信頼される学校をめざす。 ○　人生の先達として人間として正しい道を教え，実践する教職員をめざす。 （児童生徒指導）○　教職員と子供たちのよりよい人間関係の中で，いじめ・不登校ゼロをめざす。 ○　健康と安全教育に目を向けた指導を心がける。(生命尊重) ○　地域安全マップの作成とその活用を図る。 （健康・体力）○　態度基礎訓練として，特に「気をつけ」時の足の開きを徹底する。（「正しい姿勢」） ○　自分のわがままに打ち勝つ強い心の育成(気づきの生活)を図る。 （学習指導）○　「楽しく分かる授業」を展開するために，子どもが主役の『練り合い』の授業に心掛けながら学力の定着を図る。 ○　小中一貫乗り入れ授業を通して，学習面での課題の明確化を図る。

５　自己評価（Aは共通評価指標，Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は，全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には，Ａ拡充　Ｂ継続　Ｃ縮小・廃止，を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評　価
教育全体の状況	A1　学校は，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　９２．９%** 「学校全体に活気があり，明るくいきいきした雰囲気である。」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　９７．４%**	①　「かしこく，やさしく，たくましく」の合言葉の浸透を図り，笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。	B	A1について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答 92.9%で，保護者 97.4%で指標を達成した。 ・　①については，意識づけが図れるように，児童昇降口の壁面に合言葉を掲示してあり常に目に触れることができる。また，学校から出す封筒にも合言葉を印刷し，保護者や地域にも浸透させるようにしてきた。 【次年度の方針】 ・　①については，場を捉えて，合言葉がさらに浸透していくように学校教育全体で実施していく。 ・　②③継続
		②　学校行事では，児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し，明るく生き生きと取り組ませる。	B	
		③　Ｑ－Ｕの結果を分析し，児童一人一人がいきいきと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	B	

	A2　教職員は，組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「先生は大切なことを熱心に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　９８．０%** 「教職員は協力し，教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　９２．５%**	①　学びに向かう集団に高めながら，児童一人一人が自らの力で様々な課題を解消し，意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助する。	B	A2 について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率 98.0%, 保護者 92.5%で，指標を達成した。 ・　①②③④⑤いずれも一定の成果は上がっている。 【次年度の方針】 ・　①については，児童が意欲的に学習に取り組めるように教職員が教材研究を行う時間と場の確保に努める。 ・　②については，教職員一人一人が自分のよさと教育者としての自覚をもち，学校経営への参画意識をもって取り組んでいく。 ・　③④⑤については，どのようなことでも誠意をもって，全職員が足並みを揃えて取り組んでいく。
		②　職務の遂行に当たっては，キャリアや専門性，特性を生かし，見通しをもって創意ある取組を目指す。	B	
		③　保護者や地域住民へ，児童の様子の紹介や協力依頼の発信など進んでコミュニケーションをとり学校教育の理解を促す。	B	
		④　来校者・電話・連絡帳などの問い合わせや要望には，速やかかつ丁寧に対応する。	B	
		⑤　服務規律を守り，信頼される教職員を目指す。	B	
	A3　児童は，授業と生活のきまりやマナーを守り，秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　８７．２%** 「児童は，授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　８５．６%**	①　児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう，その姿を「よい子の生活」に示し，学習と生活のきまりの徹底に努める。	A	A3 について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率 87.2%, 保護者 85.6% 教職員 95.0%，地域住民 90.0%でいずれも指標を達成した。 ・　②については，生活当番の教員が校舎巡回等を実施したり，情報を引継いだりしてきた。 ・　③については，異常気象に伴う竜巻の避難訓練を急遽実施した。緊急避難者マニュアルも整備し，危機管理マニュアルの充実を図った。 【次年度の方針】 ・　①については，朝の会等で「よい子の生活」を取り上げ徹底して意識づけたり定期的に振り返らせたりする。また，「よい子の生活」の重点項目の洗い出し，家庭への積極的な啓発をしていく。 ・　②については，生活当番の先生が巡視して気付いたことを放送したり，児童指導主任に報告したりして，児童指導に機能していく。また，全職員で全児童を指導していく実践を毎日積み重ねていく。
		②　生活当番は，秩序があり安全な学校生活を実践できるよう週生活目標を設定し，掲示や放送，校内巡視などを行って意識づけをする。	A	
		③　避難訓練(火災・地震・不審者)，交通安全教室，防犯教室の実施や「子ども１１０番の家」への理解等を通して，危機管理能力を高める。	B	
	A4　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】	①　授業のねらいを明確にし，児童の関心や理解を促す教材開発や分かる授業のための指導法の工夫に努めるとともに，共有化を図る。	A	A4 について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率 92.9%, 保護者 88.2%でいずれも指標を達成した。 ・　①②の指導法の工夫や個に応じた指導に努めていることについて，保護者の肯定的

	全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく，一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　９２．９%** 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど，きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　８８．２%**	②　習熟度別学習や少人数指導，ＴＴ指導，かがやきルームやなかよしルームでの個別指導等を通して，児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	A	回答率が昨年度とほぼ同じ数値を示し，児童の様子から徐々に理解されつつあるのではないかと思われる。 ・　②については，指導に携わる者が互いに情報交換をし教材研究を入念に行い，児童にとって分かる授業の工夫・改善に努めている。 【次年度の方針】 ・　①②ともに，保護者，地域住民が十分に理解できるように，積極的に授業を公開する。 ・　習熟度別学習や少人数指導では単元に応じた指導法により，児童一人一人にきめ細やかな指導を展開する。そして，さらに表現力が身に付くように指導していく。
	A5　日課，授業，学校行事など教育課程は，適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　９２．３%** 「学校の日課，授業，行事などは，適切に実施されている」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　９６．４%**	①　日課は，子どもにとって秩序とゆとりのあるものになるよう適切に実施する。	A	A5について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率 92.3%，保護者 96.4%ともに指標を達成した。 ・　①については，昨年度の反省に基づき，改善をし，ゆとりが生まれた。 ・　③については，行事の評価は，その都度十分に行っている。 【次年度の方針】 ・　①については，Ａ日課とＣ日課のように異なる日課についても授業の開始時刻を合わせ，分かりやすく改善する。 ・　②については，今年度実施した出前授業や企業訪問で指導上有効なものは自校化として年計に残し，年間予定外で新たに実施するものは，早めに評価する。
		②　新学習指導要領及び小中一貫教育の趣旨を踏まえ，学校教育スタンダードに示す取組を実践するよう，各教科等年間指導計画・各種教育年間指導計画を見直すとともに，本校独自の教育活動を推進する。	A	
		③　学校行事は，その都度評価し，改善すべき点について検討して次年度に生かす。	A	
学校運営の状況	A6　学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ，開かれた学校づくりが進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「学校は学校だよりや学校公開などで，積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　９７．４%**	①　学校だより，学年だより，保健だより，図書館だより，教育相談だより，食育だより等様々なたよりの作成において，関心を高める紙面の工夫に努めながら積極的に情報発信したり，ホームページを適宜更新したりして，保護者や地域住民に学校の取り組みを知らせる。	B	A6について 【達成状況】 ・　保護者の肯定的回答率 97.4%，教職員は 95.0%，地域住民ともに 100%でいずれも指標を達成した。 ・　①の各種たより発行等については，取り上げる話題やレイアウト等，努力している。 ・　②についてはアンケートだけではなく，感想等をいただくことにより，教職員が振り返るチャンスになっている。 【次年度の方針】 ・　①②ともに継続
		②　授業参観，学校自由参観日，学校行事等において積極的に保護者や地域住民に学校を公開し，アンケートを実施して保護者や地域住民の意見を学校経営に反映させる。	B	
	A7　学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート	①　学校支援ボランティアの活用や出前授業，校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実する。	B	A7について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率 91.3%，保護者 96.8%いずれも指標を達成した。 ・　①②ともに，地域住民や地域協議会の協力により，外部人材を学習活動に取り入れ，効果的な活動が展開された。 ・　児童が問題解決に向かうための手段とし

	「私は，地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し，楽しい」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　９１．３%** 「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　９６．８%**	②　「魅力ある学校づくり地域協議会」において，児童の健全育成を目指し，学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	B	て，地域教材や人材を広く求め，より深い活動内容となった。 【次年度の方針】 ・　外部講師を必要とするときには，2 か月先を見越して，コーディネーターに連絡を取るようにする。
	A8　校内は，学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「校内は，学習にふさわしい環境となっている」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　８９．８%** 「学校は，荷物や備品が整理整頓されるなど，学習しやすい環境である」 ⇒保護者肯定的回答８０%以上 **保護者　９６．３%**	①　校舎内外の美化に努め，児童自ら日常的に清掃活動に取り組むよう支援し，快適な学習環境作りを目指す。 ②　日々校舎内外の巡視をするとともに，月１回施設・設備の安全点検を実施し，必要な箇所の修繕を迅速に行い学習環境の整備に努める。 ③　適切に予算を執行し，指導計画に基づいて教材教具を整備してその適切な活用と管理に努める。	①B ②B ③B	A8 について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率 89.8%, 保護者 96.3% 教職員 95.0%，地域住民 100.0%でいずれも指標を達成した。 ・　①②ともに，本校の校舎内外の環境がよく，環境整備や備品管理作業等実施している。 ・　③については，予算の執行についての情報を積極的に教職員に示したり，緊急に執行の必要性があるものについて早急に対応したりして，限りある予算を計画的に有効に使うことができた。 ・　毎朝，高学年が交代で朝の清掃を実施している。下学年にとって，よき先輩としてよい模範を示している。 【次年度の方針】 ・　①②③いずれにおいても，夏季休業等で，備品整理や自作教具，教材の整理・管理作業を行っていく。
	B1　教職員が情報を共有し，課題のよりよい解決に向けて全職員が一丸となって取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている」 ⇒本校独自アンケート **教職員　１００%**	①　管理職及び職員間の報・連・相を大切にし，互いに声をかけ合うと共に，「報・連・相ノート」を活用して共通理解に努め協力し合う。 ②　問題行動発生時には，校長のリーダーシップのもと全職員が連携して組織的に取組み，誠意ある対応を心掛ける。	①B ②B	B1 について 【達成状況】 ・　教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 ・　①②ともに，情報を共有化したり，関係者が一丸となり解決に当たったりしてきた。また，管理職には情報を常に伝え，対応してきた。 【次年度の方針】 ・　①②ともに継続していく。

教育活動の状況①	生活	A9　児童は，進んであいさつをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，時や場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答８０%以上 **児童　８４．７%** **保護者　８１．４%**	①　各学年のあいさつ運動や地域協議会のあいさつ運動で意識を高めながら，日々の生活指導の中で明るいあいさつや元気な返事ができる子の育成を目ざす。	A	A9について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率は 84.7%，保護者は 81.4%，教職員は 75.0%，地域住民は 85.7%である。 ・　①のあいさつ運動については，学年によるあいさつ運動が年間 50 回，地域協議会においても，年間 10 回実施した。 ・　小中一貫教育の取組として，年間 2 回中学 1 年生とともに，あいさつ運動を実施した。 ・　生活科の学習の一貫で「あいさつレンジャー」が活躍し，朝の挨拶運動に一役買った。 【次年度の方針】 ・　①については，教職員から明るく挨拶するよう，全職員で取り組んでいく。
		A10　児童は，正しい言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答８０%以上 **児童　８７．２%** 「児童は，大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答８０% **保護者　６５．４%** **地域住民　７６．９%**	①　相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し，生活と学習の両面から日常の指導を充実させると共に，道徳の時間の重点項目に掲げて指導の徹底を図る。	A	A10について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率は 87.2%，保護者は 65.4%，教職員は 70.0%，地域住民は 76.9%で，保護者・教職員・地域住民ともに指標に届かなかった。 ・　暴言については，コンピューターゲームの影響が考えられる。 【次年度の方針】 ・　休み時間の会話，職員室の入り方，友達の呼び方等教職員が共通理解の下，日常的に全職員で指導に当たっていく。 ・　学年部会で話題として取り上げるなどして，保護者の意識化も図りたい。
			②　朝の会や会話科，学級活動等で，時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう，学年の発達段階に応じた指導をする。	A	
		B2　学級のみんなと仲良く，助け合って生活している。〔全〕 【数値指標】 いじめの実態調査 ⇒いじめの解消率１００%	①　いじめの早期発見・早期対応のため，年度当初にいじめの実態調査の日程を決めて定期的に実施して実態把握に努めるとともに，年に２回定期教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	B	B2について 【達成状況】 ・　児童からの訴えをよく聞き取り解決し，いじめの解消率は 100%で指標を達成した。 ・　いじめのアンケートは 7 月，10 月の２回実施し，２月にも実施する予定である。 ・　学年縦割りのにこにこ班で「なかよし集会」を実施し人権に関する標語を作ったり，掲示・発表により意識化を図ったりすることができた。 【次年度の方針】 ・　①②ともに継続
			②　道徳の授業の公開や人権週間の様々な活動を良い機会としながら，日々の体験を通して人権意識を高め，思いやりの心やわがままに打ち勝つ強い心を育む。	B	

		B3　にこにこ班活動（縦割班）で仲良く協力し合って活動している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，にこにこ班活動で仲良く協力し合っている。」 ⇒児童の肯定的回答８０％以上 **児童　９１．１％**	①　日々の清掃活動や学校行事，月１回の異学年遊びなどのにこにこ班活動の機会を設定し，協力して仕事や活動ができるようにする。	A	B3について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率が 91.1%で，にこにこ班で活動することを楽しみにしている様子がうかがえる。 【次年度の方針】 ・　異学年遊びにおいては，もっと多様な遊びをしてみたいという児童の思いを叶えるために，計画的に進めていく。 ・　にこにこ班の活動は，６年生がリーダー性を発揮できる場でもあるので，各班の担当教職員の指導意欲向上を図る。
	健康・体力	A11　児童は，進んで運動する習慣を身に付けている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答８０％以上 **児童　９２．９％**	①　ミニマム達成のための運動プログラムを実施して運動の日常化に努めながら，教科体育においては授業の開始に当たってサーキットトレーニングを実施し個に応じた体力づくりに努める。	B	A11について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率は 92.9%，保護者は 82.6%，教職員は 90.0%，地域住民は 100%で指標は達成した。 ・　①については，発達段階を考慮しながらサーキットトレーニングを取り入れ，有効的に活用を図ってきた。その結果，児童の肯定的回答率が昨年度より 10%も上昇し，楽しく運動する機会をもったことを児童自身が自覚している。 ・　水泳検定表は，地域学校園で検討したものを使用した。 【次年度の方針】 ・　①は継続 ・　③については，各学級で計画を立て実施する。
			②　態度基礎訓練として，特に「気をつけ」時の足の開きを徹底する。	B	
			③　学級においては，水曜日のロング昼休みに異学年遊びの時間を確保するように努め，体力向上を目指すとともに学級の人間関係の構築を図る。	B	
		A12　児童は栄養にバランスを考えて食事している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，好き嫌いなく給食を食べている。」 ⇒児童の肯定的回答８０％以上 **児童　７４．４％** 「自分の子どもは，好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答８０％ **保護者　６５．６％**	①　学校栄養職員の取組みを生かし，教室やランチルームでの給食指導の充実を図ったり，保護者への啓発に努めたりしながら，望ましい食習慣の定着を目指す。	A	A12について 【達成状況】 ・　児童の肯定的回答率は 74.4%，保護者は 65.6%，教職員は 90.0%，地域住民は 80.0%であった。 ・　ランチルームでの給食では，マナーの指導等をその都度行ってきた。残菜についても，励ましながら少しずつでも食べられるように指導してきたが，なかなか難しい面がある。 【次年度の方針】 ・　①については，学校栄養職員が授業に参加するなどして日常的な給食指導を行っていく。 ・　②については，栄養指導の授業を参観してもらうチャンスを作ったり，親学の講座を開いたりして保護者への啓発を広めていく。
			②　食事をとることの大切さについて，学年に応じた授業を通して理解を深め，自ら実践する態度を育てる。	A	
	学習	A13　児童は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は授業中に進んで話	①　授業では，聞く態度の定着を基盤に，基礎・基本の徹底を図るとともに，様々な学び合いの中で「練り合う」場面を設定し，「話す」力を高めながら，自分の考えを堂々と表現できる児童を育てる。	A	A13について 【達成状況】 ・　児童肯定的回答率は 83.2%で指標は上回っているが，教職員からはまだまだ受け身的な学習態度であるという声も聞かれる。 ・　公開研究会がきっかけとなり，人前で話すことや練習を重ねて自信をもって発表す

		し合い，分かりやすく発表するなど積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答８０％以上 **児童　８３．２％**	②　学び合いの場面では，友達の考えを参考にしたり，比較したりしながら，自分の考えをまとめ，表現する力の育成に努める。	A	ること等については，よく取り組んでいた。 ・　各教室に貼ってある「目・耳・心」で聞くこと，「はっきり，ゆっくり，大きな声で」話すことの掲示物により，意識化が図られた。 ・　かがやきルームにおける指導が効果的で，児童は自信をもって取り組めるようになってきた。 【次年度の方針】 ・　①②ともに，児童が表現できる場と時間を確保していき，自信を持たせ次の活動につなげていくようにする。
		B4　基礎的・基本的な学習内容を身につける。〔全〕 【数値指標】 学習内容定着度調査の結果 ＜基礎的内容＞ ３～６年の平均 **国語　６９．４点** （市平均　74.9 点） **算数　７３．３点** （市平均　78.6 点）	①　朝の学習や授業において，漢字･計算等の徹底した反復練習によって定着を図り,達成感を味わわせることにより学習の習慣化を目指す。	A	B4 について 【達成状況】 ・　学習内容定着度調査結果から基礎的内容の結果を抽出し分析する。市の平均から見ると，国語については5.5点，算数については5.3点低いことが明らかになった。 【次年度の方針】 ・　当該学年の基礎基本が次年度の基盤になっていくので，児童に定着できるようにスモールステップで指導・評価していく。 ・　粘り強く取り組む力，読み取る力が苦手な児童がいるので，楽しく興味関心が持続できる指導法の工夫をしていく。 ・　家庭と連携を図りながら家庭学習において反復学習を進めていく。
			②　家庭と連携を図りながら，（学年×１０分）の家庭学習を実践する。	A	
		A14　児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，授業中に先生や友達の話をよく聞くなど，落ち着いて学習している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答８０％以上 **児童　８９．８％** **保護者　８８．０％**	①　学校全体で「学習のきまり」に取組むことにより，学習の基盤となる学習態度や学習技能を身につけさせる。	A	A14 について 【達成状況】 ・　児童肯定的回答率は 89.8%，保護者は 88.0%, 教職員は 95.0%, 地域住民は 80.0%で指標を達成した。 ・　①の「学習のきまり」や掲示物は，共通理解の下指導ができ効果的であった。 ・　②は全体で集まる朝会や集会時に，静かに待ったり，黙って聞いたりすることができるようになってきた。 ・　生活科，総合的な学習の時間の研究の成果が生かされ，自分の考えをもって取り組む児童が増えてきた。 【次年度の方針】 ・すべての学習は落ち着いた環境の下でこそ力になっていくことを全職員で共通認識した上で，今後も継続していく。さらに，発達段階に応じて，話している内容をよく考えながら聞くことができるようにしていく。
			②　「話の聞き方」については，全教育活動を通して，学年の発達段階を踏まえつつ，全職員による共通理解のもとで育成する。	A	

本校の特色・課題等	B5　自分の住んでいる地域を理解し，郷土に対する愛情を持っている。 【数値指標】 全体アンケート 「校外に出て，地域を調べたり体験したりする学習は，地域理解に役立つ活動である。」 「食農体験活動は農業や食への理解や関心を深めるために大切な活動である」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 ８０%以上	①　「ふるさとカルタ」について調べる中で，地域のすばらしさに触れ，地域の方との交流を深める。さらに，家庭でもカルタを利用してもらうことにより家庭と連携しあった活動を目指す。また，地域のシンボルである羽黒山に登り，郷土愛をはぐくむ。	B	B5について 【達成状況】 ・　児童肯定的回答率は 95.89%，保護者 99.0%教職員 95.0%，地域住民 100%で指標を達成した。 ・　①の「ふるさとカルタ取り大会」においては，昨年度精選した 50 枚のカルタを使用した。このカルタに詠まれている内容を地域調べの導入に生かしたり，総合的な学習の時間「ゆずっ子タイム」で学習したことを披露したりすることができた。そのことにより，地域のよさを再確認するよいチャンスになった。 ・　②の食農体験では，収穫した米で，各学年の創意により，おにぎりやお弁当づくり，かまどでのご飯炊きなど実施することができた。 ・　②については，稲の生育に関わる活動を児童が実施できた。 【次年度の方針】 ・　①の「ふるさとカルタ」については，来年度も継続していく。また併せて「うつのみやカルタ」や「百人一首」も活用していく。
		②　全児童が食農体験事業で田植えや稲刈りを体験したり，５年児童が総合で稲の観察や世話などを実践したりすることで農業や食への理解や関心を深める。	B	

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

・「学校運営の状況」については，１６項目中１３項目で，児童も保護者も地域住民も教職員もすべての対象者で指標を大きく上回る結果となった。その中で，教職員は，それぞれの担当分野で，また学校の全教育活動を通して，創意工夫をしながら誠実に指導を行ってきたこと等が教職員の回答状況からうかがえる。しかし，保護者の中には，児童の実態を把握しきれていない現状も見られた。そこで，今後，学校は保護者に対して児童の実態と学校の取り組みについて説明する機会をこれまで以上に設け，保護者の理解を深めるとともに，親学講座などを実施して家庭の教育力向上を図る取組を積極的に行っていく努力が必要である。その担い手として，学校と家庭をつなぐパイプ役を地域協議会や PTA に求め，その協力を日々の教育活動に得られるようしていきたい。

・「教育活動の状況」の「あいさつ」については，保護者・地域住民・児童の肯定的回答が昨年度より上回った。しかし，言葉遣いについては教職員・保護者・地域住民で指標に届かなかった。特に地域住民の肯定的回答率が 13.5%も下回った結果については謙虚に受け止めたい。<u>家庭にも積極的に働きかけ協力を得ながら，気持ちのよい会話ができるように学校全体で取り組んでいきたい。また，地域全体にも関わることとして，小中一貫教育においても話題に取り上げ，改善に向けて取り組んでいきたい。</u>

・　今年度，本校の合言葉である「かしこく　やさしく　たくましく」が定着してきたので，日々の教育活動において，この合言葉とさらに連動させて指導にあたっていきたい。

６　学校関係者評価

・　「時と場に応じたあいさつ」については，昨年度より肯定的回答率が上がっており，明るい挨拶が交わされていて，教育活動が健全に実施されていることが分かる。自己評価の結果は，課題の把握や今後の改善策について方向性が適切に示されている。また，学校独自項目の「評価項目」「主な具体的な取組」等も実態に即した内容であり，今後さらに目的達成に向け取組の創意工夫を行っていく。

・　学校が家庭や地域と一層の協力・連携して取り組むべきこととして挙げられるのは，学校支援ボランティアの充実で，募集の工夫改善に取り組むことが必要である。昨年度，地域コーディネーターの活躍により人材発掘したことが基となり，さらに充実した。学区内だけではなく，上河内地区全体にも広く人材を求め，児童にとって有効で充実した教育活動がなされた。児童の知的好奇心を満足させるには，「聞きたい」「知りたい」「調べたい」と思うときに叶えられることである。学校と家庭と地域がより身近な関係を築き，信頼関係を構築していく上でも大切である。

７　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

・　今年度は，児童・保護者・教職員・地域住民の対象者において，昨年度と比べて６３項目中４０項目で肯定的回答率が上がり，教育活動が順調に実施されてきたことが分かる。学校の日々の努力に加え，昨年度の学校評価と本校独自の教育課程評価に基づき，児童に本物に触れる経験等の教育活動を計画的に実施してきたことが功を奏したものと考える。

・　保護者は学校からの情報提供や連携について評価しているものの，児童の学習や生活の状況について課題意識をもっている。「好き嫌いなく食べる」「あいさつ」「言葉づかい」は，将来を担う児童にとって基本となることである。その課題意識を，学

校は家庭と連携して教育を行う機会と捉え，次年度は「共に子どもをよくしていく」視点で家庭にも積極的に関わっていきたい。それは家庭の教育力に関わる課題に対する改善策として，取り組むべき課題を謙虚に受け止め，教職員が一丸となり取組んでいくことが必要だからである。

○　小中一貫研修会において教科部会を開き小中学校における情報交換が行われ，小中９年間を見越した連携がなされた。さらに，学力向上に向けて，上河内地域学校園として学習のきまりや家庭学習等，上河内4校が足並みを揃えて取り組んでいきたい。